



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

アフガニスタン南部で大規模作戦開始（その1）
—米国・NATO軍とアフガニスタン軍の連携作戦開始—

2月13日未明から、アフガニスタン南部のヘルマンド州で、米軍・NATO軍が本格的な作戦を開始した。ヘルマンド州マルジャ地区に対する作戦では、アフガニスタン軍・警察部隊が本格的な共同作戦を行う模様である。兵力は約1万5000人で、アフガニスタン軍は1500人が投入されたといわれる。2001年以降、最大規模の作戦で、米国の新しい戦略の試験ケースとなると報道されている。

ヘルマンド州で大規模な作戦については1月末頃から散発的に報道されていた。2月5日、米軍のマクリスタル司令官は、メディアと会見し、ヘルマンド州で大規模な作戦を開始すると異例の発表をしていた。同司令官は、これは通常の作戦ではなく、アフガニスタン国民に政府の意思を知らしめることが重要であるとしていた。マルジャ付近での戦闘は2月9日頃から報道されていた。11日には米軍などがマルジャを包囲したと報道されていた。

マクリスタル司令官は、マルジャのターリバンが逃亡しても抵抗しても、どちらでもかまわないと発言している。報道では、同地域のターリバンの勢力は400人から1000人程度とされる。米軍・NATO・アフガニスタン政府軍による今回の作戦は、ターリバン掃討作戦であるが、それ以上にターリバンの拠点制圧を主目的にしているようだ。マルジャの人口は約8万人で、ターリバンが支配しており、麻薬取引、路肩爆弾製造の中心地とされている。米軍・アフガニスタン軍は、ターリバン支配を軍事的に排除し、その後でカブール政府の統治確立を狙っている。カルザイ大統領は、今回の作戦は8～10日間になると述べ、ターリバンに暴力を放棄し、市民生活に復帰する機会だと呼びかけている。今回の作戦は、①マルジャ地区のターリバン討伐、②討伐後のアフガニスタン政府の統治確立、の2つが大きな目標になる。

ヘルマンド州では、2009年夏から大規模な作戦を英軍と米海兵隊が実施してきた。昨年の作戦では、路肩爆弾による死者が多かったとされており、米軍は今回の作戦で路肩爆弾用の車両も試験投入したと報道されている。2月2日、米軍のムーレン統合参謀本部議長は、アフガニスタンでの戦いについて、今後1年ないし1年半が重要であると述べている。

カルザイ大統領は、2月初めにサウジを訪問してアブドゥラー国王と会談し、ターリバンとの政治対話での仲介支援を要請した。サウジ側は、ターリバンがアル・カーイダとの関係を切れれば仲介支援を行うと返答したと報道されている。

（中東調査会 中島勇）